

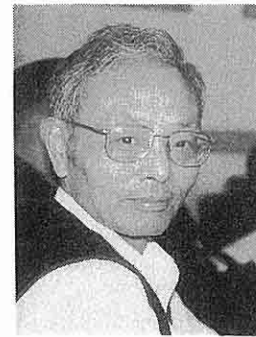
你好!

重慶大爆撃を ご存じですか?

—私たちは日本軍による重慶爆撃の被害者です
私たちは真相・正義・索賠・和平を求めています—



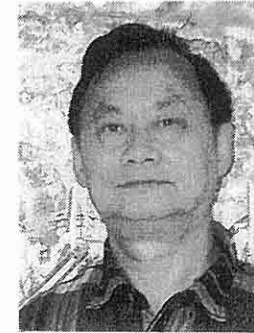
重慶大爆撃被害者 対日民間賠償原告団



【潘 洵さん】西南師範大学教授、重慶大爆撃 研究の専門家
私が所属している西南師範大学には、重慶爆撃の研究センターがあります。私も同センターの研究活動に参加していますが、二〇〇二年に他の研究者と共同で「重慶大爆撃」と題する本を出しました。重慶爆撃被害者が組織する対日民間賠償原告団の活動は、重慶大爆撃の歴史的意義を今日の目的に明らかにする重要な活動だと思っています。特に原告団が、民間の立場から真相・正義・賠償・平和を掲げて活動していることの意義を大きいと思います。



【羅 漢さん】大爆撃被害者、重慶大爆撃被害者民間対日索賠原告団副秘書長、芸術家
私は一九四〇年七月に最愛の父を重慶爆撃でなくしました。この八月で七十二歳になりますが、平和を実現するために日本に行く決心をしました。日本軍が犯した重慶大爆撃という重大な戦争犯罪を日本人が忘れることは許されません。多くの日本人と話をしたい。



【牟之先さん】「重慶大爆撃被害者民間対日索賠原告団」顧問、重慶史研究者、記録映画「重慶大爆撃」制作学術顧問
私は、長く重慶爆撃のことを研究してきました。日本には侵略戦争の真実を改ざんした歴史教科書を学校で使う反動的な動きがあります。今こそ重慶爆撃が日中戦争中に日本が犯した重大な戦争犯罪であることを日本人自身を知ることが重要です。

【匡麗娜さん】「重慶経済報」記者
私は記者ですから、できるだけ多くの日本人青年から率直な中国認識を聞きたいと思っています。重慶の若者の考えもお伝えできるとおもいます。



【林 剛さん】重慶大爆撃原告団 助教授
私は、重慶の弁護士です。仲間の約一〇名の弁護士と一緒に重慶爆撃原告団の代理人として活動しています。具体的には、爆撃被害の証拠の収集などを通して、重慶市民が受けた戦争被害の賠償請求を手伝っています。



重慶大爆撃被害者対日民間賠償原告団

中国重慶市渝中区較場口得意世界A区6-1

TEL&FAX +86-2363798935

日本連絡先：重慶大爆撃被害者と連帯する会（仮称）代表・栗原君子、事務局長・由木栄司

〒730-0047 広島市中区平野町 8-15 カレントコスモ 2 階栗原君子気付

TEL+81-82-504-8817、FAX+81-82-504-8818

〒105-0003 東京都港区西新橋1-21-5 TEL+81-3-3501-5558 / FAX+81-3-3501-5565

E-Mail: info@ichinoselaw.com

我が原告団が重慶爆撃を問う理由



一 日本は、一九三一年の中国侵略以来、三五〇〇万の我が国の兵士と平民を殺傷し、併せて一七億七千万両黄金の財産を破壊した。中国人民は、抗日の戦いに立ち上がった。中でも「七・七」盧溝橋事件以降、日本軍国主義は中華民族の滅亡をも意図して全面的な侵略戦争に突入した。我が人民は、この中国の国家と民族の存亡の瀬戸際で、当然、自らの命を投げ捨て、決意で最後の勝利まで戦い、祖国を守った。

二 重慶は、中国の抗日戦争時期の戦時

首都であり、この中華民族の生死存亡をかけた抗日戦争の時期の戦時首都であり、戦いの根拠地でもあった。また世界的に見ると、重慶は、第二次世界大戦の中では、反ファシズム戦争の四大根拠地(ワシントン、ロンドン、モスクワ、そして重慶)の一つであり、正義のメッセージの世界への発信地だった。だからこそ日本軍国主義は、重慶を恨み、忌み嫌い、一九三八年から一九四三年までの五年間半という長期間、残酷な爆撃を加え続け、我々のような重慶の一般の庶民を皆殺しにしようとし、街と住居の一切を焼き尽くそうとしたのである。

三 日本は、五年間半に及ぶ重慶大爆撃で、延べ二百ないし三百回も爆撃機を出撃させた。その結果、五〇万ないし六〇万あまりの重慶市民が家を失い、家産を傾けた。死傷した市民は、六万人を超えた。重慶の九〇パーセントの家屋は破壊された。全世界が驚愕した一九三九年の「五・三」、「五・四」の大爆撃で起きた火災は、三日間も続いた。数十筋の町並みが壊され、

一晚のうちに十数万人が住む家を失った。二五万人が避難し、八二〇〇人あまりの人が死傷した。父や母を呼んで泣き叫ぶ声が至る処に聞えた。爆撃で体から吹き飛ばされた頭や飛び散った人間の手足、腸などが木々の枝や電線にぶら下がっているという悲惨な状況が出現した。にぎやかだった重慶の街は、あつという間に恐怖の地獄になってしまった。

四 重慶爆撃から六〇年余り経た二〇〇一年、「重慶大爆撃文物展覧会」が企画されたのを機会に、大爆撃を経験した私たち老人は、重慶大爆撃の記憶をたどり、涙を流しながら、当時の苦難の歲月や一家が離散し肉親を失ったこと、家産を傾けた苦しい体験を語りあうようになった。その後、私たち被害者は、日本軍国主義が重慶爆撃で行った犯罪行為の責任は未だ追及されていないこと、何よりも日本政府は重慶爆撃を反省していないことと確信するようになった。

私たち被害者は、二〇〇四年四月七日

に「重慶大爆撃被害者民間対日賠償請求原告団」を結成した。現在までに、四六一名の被害者が原告団に登録している。その中の三六一名が爆撃の被害を記録した陳述書を原告団に提出している。

被害者の大部分は七〇、八〇歳代の老人で、九〇歳代の人もいる。彼らは収入が少なく、生活が苦しい。しかし、現在、重慶市の各界の良心的な人士や大学教授や弁護士、さらにジャーナリストや市民・学生が我が原告団に協力してくれている。また彼らの一部は顧問団にもなってくれている。

五 我が原告団は、自分たちの標語として「真相」「正義」「賠償」「平和」を掲げている。

我が原告団の第一の目的は、日本軍国主義が行った重慶大爆撃の事実、加害と被害の全ての真実を明らかにして、歴史に残すことである。我々は、爆撃の加害者を許すことがあっても、爆撃の歴史を忘れることはできない。忘却は歴史への犯罪である。日本の爆撃で重慶の一般庶民が残酷に殺された事実を永遠に忘れないことが、重慶大爆撃を繰り返させない道である。

第二の目的は、日本政府に重慶爆撃が違法な犯罪行為であることを認めさせ、重慶爆撃の被害者に対する謝罪と賠償を実行させ、これを通して被害者に正義を実現させることである。

賠償を得ることは最終の目的ではない。お金は、我々の苦しい記憶を消すことも、精神的な損失を補うこともできない。まして肉親をよみがえらせることは不可能である。しかし賠償を通じて日本政府は真剣に歴史を反省し、教訓をくみ取るべきである。かつて日本のある野党の党首が「謝罪のない賠償は道義に反する。賠償のない謝罪は偽りである」と言ったが、我々はこの発言に賛成する。戦争は人類に巨大な損失と災難しかもたらさない。これを日本政府はよく認識すべきである。賠償を求めないのは、民族の恥であり、臆病の現れである。

第三の目的は、歴史を鑑にして、中日両国の人民は子々孫々友好的につきあい、アジアと世界の平和を実現することである。私たちは、良心的で目覚めた日本人は第二次世界大戦で犯した過ちを深く反省し、二度と隣国を侵略することなく、中国人民と友好的につきあつていくことを確信し

ている。平和こそは我が原告団の最終にして最大の目的であり願ひである。

二〇〇五年七月二五日

重慶大爆撃被害者対日民間賠償原告団

団長 高原

包括乐山、自贡受害者在内的対日索赔团成立

生命不止索赔不已



诉讼团的老人们群情激愤

重慶大爆撃とは

重慶大爆撃は、一九三八年から一九四三年までの五年半に及ぶ都市爆撃で、日本軍が重慶の一般住民の殺戮を意図的に狙った残酷な無差別爆撃である。

一九三七年十一月、国民政府は重慶を戦時首都と決定した。当時、戦乱を避けようとする膨大な数の中国人が沿岸部から奥地に向け移動した。推計では、この時期に戦争のために一千万人以上が中国大陸を移動したとされるが、うち七百万人が四川省に入り、このうちの百万人以上が重慶とその周辺に住居を構えた。

日本は、一九三七年七月の盧溝橋事件以降、中国への全面的な侵略戦争を開始したが、この直後から日本軍機が上海、南京をはじめとする中国のほとんどの主要都市を爆撃した。その中で重慶大爆撃は、日本の侵略戦争に徹底抗戦する中国の政府・民衆の戦意喪失と侵略への屈服を狙った最大規模の無差別・戦略爆撃であった。

重慶爆撃の背景には、日本軍の戦略的行き詰まりがあった。一九三八年秋、日本

軍は武漢や広東などの要衝を占領した。しかし中国側は重慶に戦時首都を構えて長期持久戦の体制に入った。行き詰まった日本は、海軍航空部隊の主力を支那方面艦隊指揮下の第一・第二連合航空隊(司令部・漢口)に配備し、重慶や成都などへの「奥地」爆撃を強行したのである。この「奥地」爆撃の主体は海軍航空隊であった。

重慶爆撃が最も激しかったのは一九三九年から四一年までの三年間であった。一九三九年の「五・三・五四」、一九四〇年の「二〇一」号作戦、一九四一年の「二〇二」号作戦、「六・五」大隧道惨案とそれぞれ呼ばれている爆撃では、重慶は甚大な被害を出した。

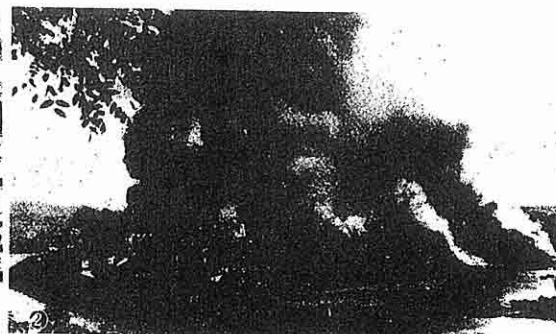
日中の資料では、一九三九年の爆撃日数二五日、機数六三三機、投弾数二〇九四発、死者五六二二人。一九四〇年は爆撃日数六六日、死機数三二九機、投弾数七五三〇発、死者二四一八人。一九四一年の爆撃日数五〇日、機数二一八〇機、投弾数五八一発、死者二四六九人。

一九三九年は、重慶にとって最初の大規模な爆撃だった。多数の死者を出した五月三日と四日のように、重慶の市民は爆撃へ

の備えは充分でなく大きな被害を受けた。一九四〇年は、五月から八月にかけて重慶爆撃として「二〇一」号作戦が実行された。そこでは重慶の市街地をAからHまで区分して順次絨毯爆撃を行うやり方が取られた。八月からは、開発されたばかりの零式艦上戦闘機(ゼロ戦)が宜昌(同年六月占領)の飛行場から飛び立ち、護衛戦闘機として初めて実戦に参加した。

一九四一年には、「二〇二」号作戦が五月から実行されたが、爆撃の中では六月五日の隧道大惨案と呼ばれる隧道内での大量の窒息死が発生した。死者の数は数千名に及ぶとの説がある。

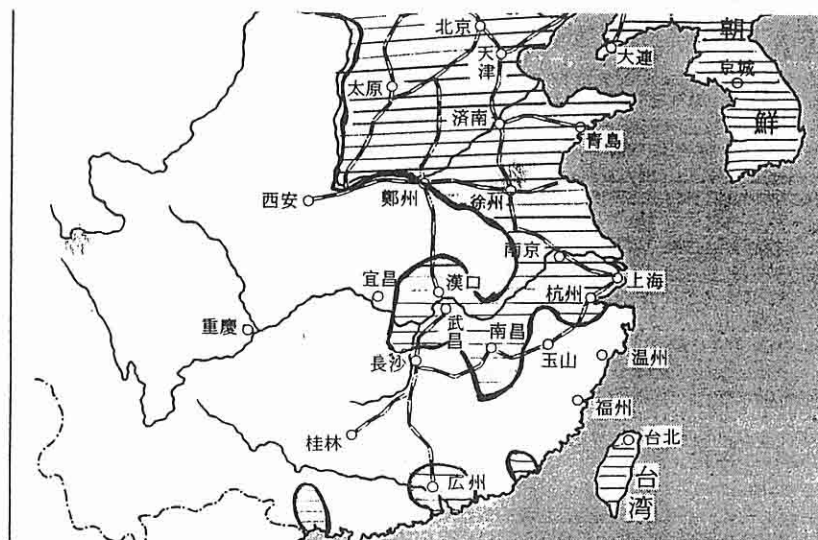
最近の資料では、五年半の死傷者は六万一千三〇〇人、うち死者二万三千六〇〇人、負傷者三万七千七〇〇人とされる。



爆撃で大火に覆われる重慶



↑山を利用して防空洞窟を修築している重慶市民



重慶大空爆関係図

(横線は一九三九年当時の日本の占領地域及び植民地)



重慶爆撃を報道する日本の戦前の商業紙



日本軍の爆撃で破壊された重慶市教会の学校



危険を冒して消火する重慶市民

重慶大爆撃の年譜

年	月	重慶大爆撃(◆印は関連事項)
1932年	3月	◆偽満州国建設
1934年	9月	◆毛沢東ら長征開始
1936年	12月	◆西安事件
1937年	7月	◆盧溝橋事件
	11月	国民政府、重慶に遷都を決定。
	12月	◆南京大虐殺
1938年	2月	18. 日本軍、重慶に対して戦略爆撃を開始
	10月	4, 8爆撃
	12月	26. 漢口を主要発進基地に無差別爆撃開始
1939年	1月	7, 10, 15爆撃
	5月	3, 4, 12, 25爆撃 ◆ノモンハン事件 3. 海軍航空隊爆撃機36機が重慶市街地を無差別爆撃 4. 海軍航空隊爆撃機27機が重慶市街地を無差別爆撃
	6月	9, 11爆撃
	7月	5, 6, 24, 31爆撃
	8月	2, 23, 28, 30爆撃
	9月	1, 3, 28, 29爆撃
	10月	3, 4, 5, 8爆撃
1940年	4月	15, 24~25, 30爆撃
	5月	日本軍が「101号作戦」開始。各地区に絨毯爆撃開始 18~22, 26, 27, 28, 29, 30爆撃
	6月	6, 10, 11, 12, 16~17, 24, 25, 26, 27, 28, 29爆撃
	7月	4~5, 8, 9, 16, 22, 31爆撃
	8月	2~3, 9, 11, 12, 17, 18~20, 23爆撃 ◆八路軍が百団大戦 19. 爆撃機143機が重慶市街地を無差別爆撃 20. 爆撃機141機が重慶市街地を無差別爆撃
	9月	12, 13, 14~16爆撃
	10月	6, 10, 16~17, 25~26爆撃 ◆細菌戦(衢州、寧波)
1941年	1月	14, 22爆撃
	3月	18爆撃
	5月	3, 9, 10, 16爆撃
	6月	1, 2, 5, 7, 11, 14, 15, 28, 29, 30爆撃 5. 隧道大惨案。日本軍が重慶を爆撃し、トンネルに避難した市民のうち数千人が窒息死
	7月	4, 5, 6, 7, 8, 10, 18, 28, 29, 30爆撃
	8月	8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 22, 23, 30, 31爆撃
	9月	1, 24爆撃
	5月~7月	日本軍が「102号作戦」開始。海軍第22航空隊が重慶を20回余爆撃。6月14~16, 28~30, 7月4~8, 27~30, 連続爆撃
	8月	8~14. 連続して7昼夜の爆撃。6時間おきに爆撃。重慶市区に13回の空襲警告。延べ96時間の警告
	11月	◆細菌戦(常德)
	12月	◆太平洋戦争突入
1942年	4月	◆東京など初空襲
	6月	◆ミッドウェー海戦
	8月	◆浙贛作戦
1943年	8月	23. 爆撃。151発の爆弾が投下され、21人が死亡、18人が重傷。99軒の建物が消滅 ◆ガダルカナル島撤退
1945年	8月	◆日本敗戦



【徐勇さん】北京大学歴史学系教授
私は四川省自貢市の出身です。重慶爆撃は塩田があつた自貢にも及びました。今夏、中国で前田哲男先生の『戦略爆撃の思想・ゲルニカ―重慶―広島―の軌跡』が黒竜江省社会科学学院の王希亮先生の翻訳で出版されます。私も少しお手伝いしました。現在、日本では新たな軍国主義が急速



爆撃で大火に覆われる重慶



【王康さん】重慶陪都文化研究センター主任。人文学者。記録映画「抗戦陪都」「重慶大爆撃」等を製作。
私は、日中の民間の力で「無差別大爆撃国際調査センター」を成立させたい。同センターを発足させて、「無差別爆撃に反対する国際宣言」を発表し、広島・長崎の原爆被害を含む「無差別爆撃国際展示会」を開催すること、また世界の平和の実現を目指した「無差別爆撃に反対する国際会議」の召集することを呼びかけたいと考えています。
今回訪日できず残念です。しかし私が作成に関わった重慶大爆撃のパネル約七〇枚を訪日団が日本に持って行きます。ぜひ日本全国で展示会を開催して下さい。良心的な日本の皆さんと重慶でお会いできることを楽しみにしています。

に発展しており、非常に危険な状態です。重慶大爆撃の問題を通して日中の真の友好とアジアの平和が実現されるように私も歴史学者として努力する決意です。